Kagoshima Bank

News Release

2026 年 5 月 29 日

# 暮らし向きに関する調査について

株式会社　鹿児島銀行
株式会社　九州経済研究所

| | |
|---|---|
| ［調査の概要］ | |
| 調査目的 | 県民の暮らし向きや収入、支出動向を調査し、消費の現状を把握するとともに、今後の消費がどのように変化していくか見通しを示し、卸・小売事業者などの事業活動に利用してもらうことを目的とする。 |
| 調査時期 | 2026 年 5 月上旬 |
| 調査方法 | 南日本新聞社の「みなみパス会員」による「みなみアンケート」（インターネット調査）にて実施 |
| 回答数 | 有効回答数　600 人 |
| 回答者属性 | 【性別】　男性　47.2%　女性　51.0%　不明　1.8%<br>【年齢別】　10 代　1.2%　20 代　1.8%　30 代　16.7%　40 代　18.3%<br>50 代　20.7%　60 代　25.3%　70 代以上　16.0%<br>【地域別】　鹿児島地区 48.7%　南薩地区　9.7%　北薩地区　11.0%<br>姶良・伊佐地区　18.2%　大隅地区　10.3%<br>熊毛・大島地区　2.2% |

用　語　D.I.＝「良い（良くなる）」－「悪い（悪くなる）」、「増えた（増える）」－「減った（減る）」、いずれも回答割合



はじめよう、あたらしいコト。
鹿児島銀行

【調査結果のポイント】

- 現在の暮らし向きについては「普通」が 46.0%と最も多く、次いで「悪い」(「悪い」と「どちらかというと悪い」の合計）が 41.0%、「良い」(「良い」と「どちらかというと良い」の合計）13.0%の順となった。現在の暮らし向き D.I.は▲28.0 となり、前回調査（2025 年 5 月、以下前回）から 4.8 ポイント増とやや改善した。また、今後 1 年の暮らし向き D.I.は▲43.3 で前回から 2.2 ポイント増となり、やや改善した。

- 将来の経済的な不安要素については、「物価上昇」が 81.7%と最も多く、「税金・社会保障の負担増」（54.0%）、「医療・介護費の負担増」（53.0%）が続いた。

- 1 年前と比較した家計収入については、「変わらない」が 48.2%と最も多く、次に「減った」(「減った」と「やや減った」の合計）27.4%、「増えた」(「増えた」と「やや増えた」の合計）24.5%の順となり、D.I.は▲2.9 となった。

- 1 年前と比較した家計支出については、「増えた」（同）が 79.0%と最も多く、次に「変わらない」17.5%、「減った」（同）3.5%の順となり、D.I.は 75.5 となった。

（1）現在の暮らし向き

**現在の暮らし向き**については「普通」が 46.0%と最も多く、次に「悪い」(「悪い」と「どちらかというと悪い」の合計）が 41.0%、「良い」(「良い」と「どちらかというと良い」の合計）13.0%の順となった（図表 1)。D.I.は▲28.0 となり、前回調査（2025 年 5 月、以下前回）から 4.8 ポイント増とやや改善したものの、個人の暮らし向きの改善は力強さに欠ける。

D.I.を男女別にみると女性より男性のほうが低い（図表 2)。また、年代別にみると 50 代を除く全ての年代で前回から改善したものの、10 代を除く全ての年代でマイナス圏にとどまっている。

（2）今後 1 年の暮らし向き

**今後 1 年の暮らし向き**については「悪くなる」(「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計）が 54.0%と最も多く、次いで「変わらない」35.3%、「良くなる」(「良くなる」と「やや良くなる」の合計）10.7%の順となった（図表 3)。D.I.は▲43.3 と前回（▲45.5）から 2.2 ポイント増となり、やや改善した。D.I.を年代別にみると、30 代以上で大きくマイナスとなっており、先行きに対しての見方は依然として厳しい状態となっている（図表 4)。



はじめよう、あたらしいコト。
鹿児島銀行

（3）将来の経済的な不安要素

**将来の経済的な不安要素**については、前回同様「物価上昇」が 81.7%と最も多くなり、5 年連続で最多となった(図表 5-1)。以下、「税金・社会保障の負担増」(54.0%)、「医療・介護費の負担増」（53.0%）、「収入減」（42.0%）の順となっている。前回と比較して「収入減」が 5.7 ポイント、「年金問題」が 4.8 ポイント減少した一方で、「教育費の負担増」が 3.0 ポイント、「税金・社会保障の負担増」が 1.8 ポイント上昇した（図表 5-2)。

（4）家計収入

**1 年前と比較した家計収入**は「変わらない」が 48.2%と最も多く、次いで「減った」(「減った」と「やや減った」の合計）27.4%、「増えた」(「増えた」と「やや増えた」の合計）24.5%の順となった（図表 6)。県内企業において賃上げの動きが続いていることもあり、D.I.は▲2.9 と前回から 4.8 ポイント改善、4 年連続の改善となった。年代別にみると、10 代、60 代、70 代を除く年代で D.I.がプラスとなった（図表 7)。

また、**今後の家計収入の増減**については「変わらない」が 52.7%と最も多く、次いで「減る」(「減る」と「やや減る」の合計）29.3%、「増える」(「増える」と「やや増える」の合計）18.0%となり、D.I.は▲11.3 となった（図表 8)。年代別にみると、50 代以上の D.I.はマイナスとなった（図表 9)。

（5）家計支出

**1 年前と比較した家計支出**は「増えた」(「増えた」と「やや増えた」の合計）が 79.0%と最も多く、次いで「変わらない」17.5%、「減った」(「減った」と「やや減った」の合計）3.5%が続いた（図表 10)。D.I.は 75.5 と前回（76.2）とほぼ横ばいとなった。依然として食料品や日用品など様々な商品やサービス価格の値上げが続き、家計支出の増加基調は変わらない。年代別にみると全ての年代で大幅なプラスとなった（図表 11)。

また、**今後の家計支出の増減**についても「増える」(「増える」と「やや増える」の合計）が 79.5%と最も多く、次いで「変わらない」16.5%、「減る」(「減る」と「やや減る」の合計）4.0%の順となった（図表 12)。D.I.は 75.5 となり、年代別にみても全ての年代で大幅なプラスとなっている（図表 13)。



はじめよう、あたらしいコト。
鹿児島銀行

今回の調査では、家計収入 D.I.がやや改善した一方、家計支出 D.I.は高水準で横ばいとなったことにより、暮らし向き D.I.がやや改善したとみられる。

先行きについては、賃上げなどを背景に収入増を見込む声があるものの、将来の不安要素として「物価上昇」を挙げる割合は依然として 8 割を超えており、家計の物価上昇への警戒感は強い。加えて、中東情勢の悪化などを背景としたエネルギー価格の上昇により、消費者が景況感の回復を実感するにはなお時間を要する可能性が高い。

物価上昇を受けて、政府は物価高対策を含む補正予算の編成を検討しているが、財政規律の悪化が意識されれば、円安や長期金利の上昇を招き、足元の景気を冷やす懸念もある。政府においては、限られた財源を効率的に配分するとともに、持続的な経済成長に向けた明確なビジョンを示すことが重要である。こうした取り組みを通じて国民の将来不安を軽減し、家計が安心して消費できる環境を整えることが、個人消費を起点とした景気回復の実現につながると考えられる。

以上

【本件に関するお問い合わせ】 ㈱九州経済研究所（℡ 099-225-7491）



はじめよう、あたらしいコト。
鹿児島銀行

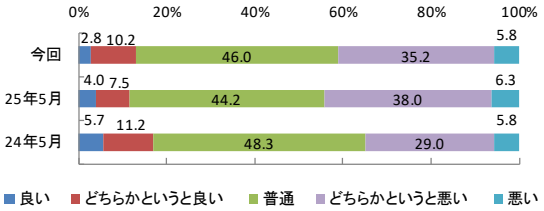
## 資料（図表によっては四捨五入の関係上、合計が100にならない場合がある）

### 図表1　現在の暮らし向き

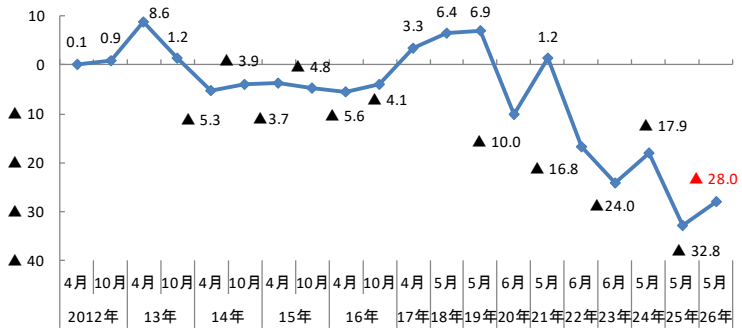
（単位：%）

| 項目 | 24年5月 | 25年5月 | 今回 | |
|---|---|---|---|---|
| 良い | 5.7 | 4.0 | 2.8 | 13.0 |
| どちらかというと良い | 11.2 | 7.5 | 10.2 | |
| 普通 | 48.3 | 44.2 | 46.0 | |
| どちらかというと悪い | 29.0 | 38.0 | 35.2 | 41.0 |
| 悪い | 5.8 | 6.3 | 5.8 | |
| D.I. | ▲ 17.9 | ▲ 32.8 | ▲ 28.0 | |

上記をグラフ化




現在の暮らし向きD.I.の推移




### 図表2　現在の暮らし向きD.I.（男女別・年代別）

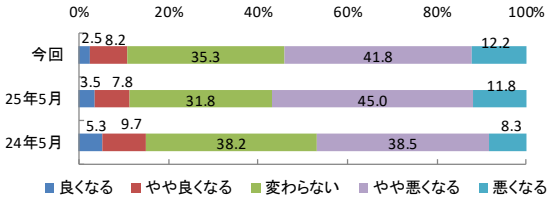
| 年代 | 24年5月 | 25年5月 | 今回 |
|---|---|---|---|
| 全体 | ▲ 17.9 | ▲ 32.8 | ▲ 28.0 |
| 男性 | ▲ 19.6 | ▲ 37.0 | ▲ 31.0 |
| 女性 | ▲ 16.7 | ▲ 29.1 | ▲ 26.2 |
| 10代 | 33.4 | 25.0 | 42.9 |
| 20代 | ▲ 11.1 | ▲ 14.3 | ▲ 9.1 |
| 30代 | ▲ 2.5 | ▲ 18.0 | ▲ 12.0 |
| 40代 | ▲ 16.4 | ▲ 31.0 | ▲ 27.3 |
| 50代 | ▲ 21.2 | ▲ 27.4 | ▲ 37.9 |
| 60代 | ▲ 23.4 | ▲ 49.2 | ▲ 36.2 |
| 70代以上 | ▲ 34.6 | ▲ 36.0 | ▲ 27.0 |

### 図表3　今後1年の暮らし向き

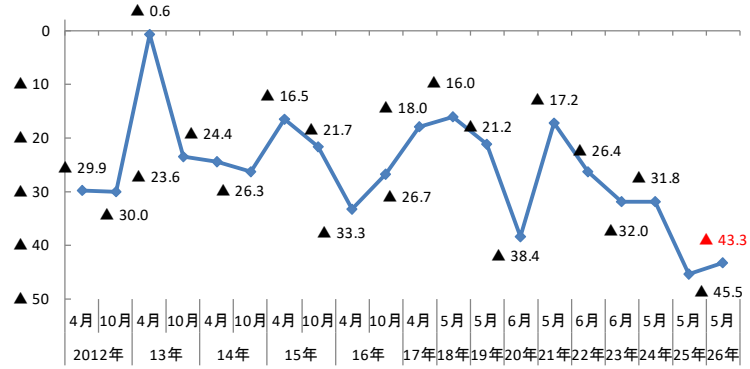
（単位：%）

| 項目 | 24年5月 | 25年5月 | 今回 | |
|---|---|---|---|---|
| 良くなる | 5.3 | 3.5 | 2.5 | 10.7 |
| やや良くなる | 9.7 | 7.8 | 8.2 | |
| 変わらない | 38.2 | 31.8 | 35.3 | |
| やや悪くなる | 38.5 | 45.0 | 41.8 | 54.0 |
| 悪くなる | 8.3 | 11.8 | 12.2 | |
| D.I. | ▲ 31.8 | ▲ 45.5 | ▲ 43.3 | |

上記をグラフ化




今後1年の暮らし向きD.I.の推移



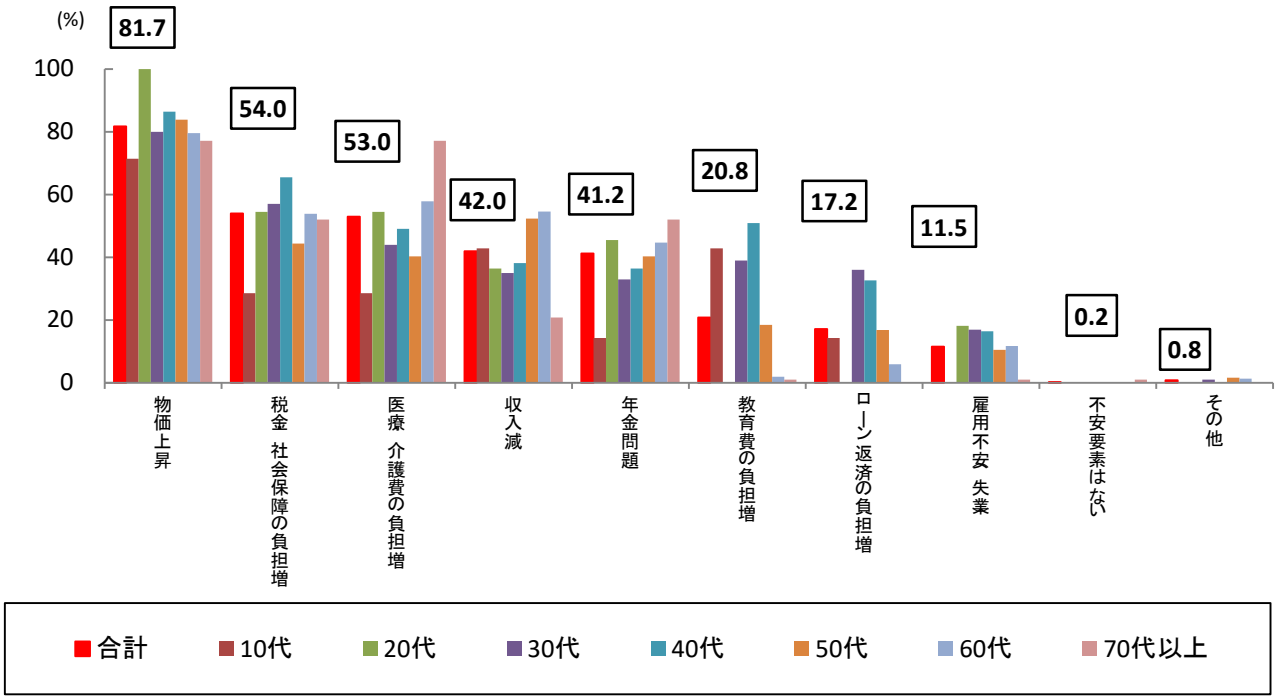

### 図表4　今後1年の暮らし向きD.I.（年代別）

| 年代 | 24年5月 | 25年5月 | 今回 |
|---|---|---|---|
| 全体 | ▲ 31.8 | ▲ 45.5 | ▲ 43.3 |
| 10代 | 0.0 | 0.0 | 14.3 |
| 20代 | ▲ 5.5 | ▲ 7.2 | 18.2 |
| 30代 | ▲ 14.6 | ▲ 23.9 | ▲ 36.0 |
| 40代 | ▲ 24.1 | ▲ 43.0 | ▲ 43.6 |
| 50代 | ▲ 34.8 | ▲ 44.6 | ▲ 50.8 |
| 60代 | ▲ 42.7 | ▲ 57.2 | ▲ 47.3 |
| 70代以上 | ▲ 49.1 | ▲ 62.8 | ▲ 45.8 |

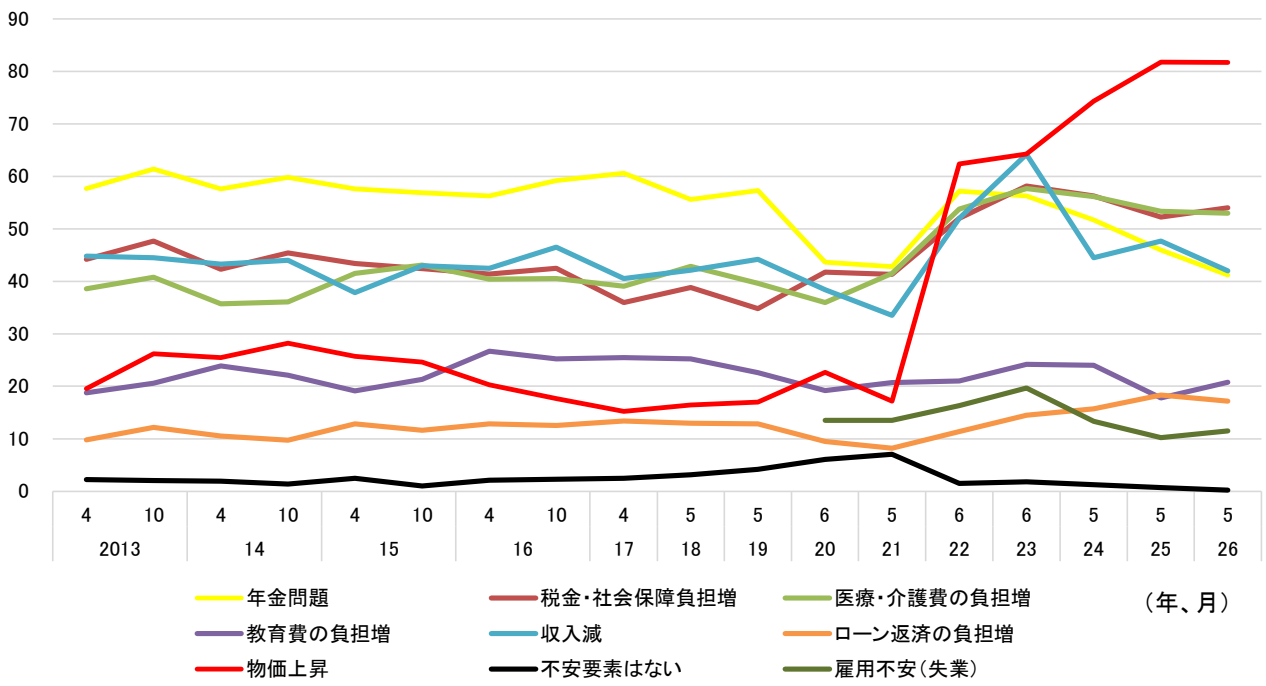


はじめよう、あたらしいコト。
鹿児島銀行

図表 5-1 将来の経済的な不安要素




図表 5-2 不安要素の推移





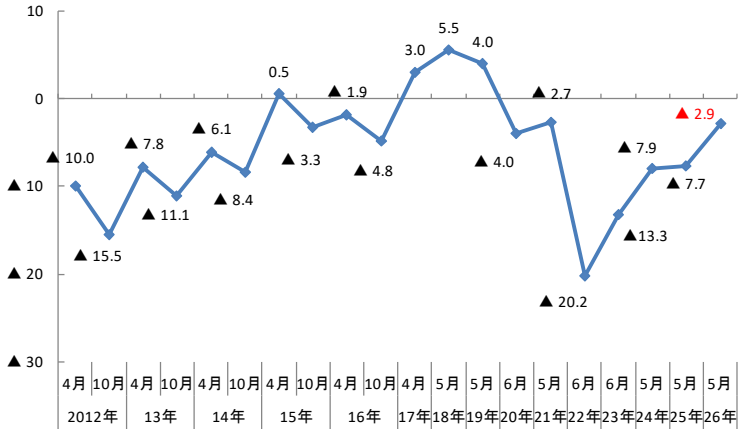

はじめよう、あたらしいコト。
鹿児島銀行

## 図表6　家計収入（1年前比）

（単位：%）

| 項目 | 24年5月 | 25年5月 | 今回 | |
|---|---|---|---|---|
| 増えた | 4.5 | 5.5 | 3.8 | 24.5 |
| やや増えた | 17.5 | 18.3 | 20.7 | |
| 変わらない | 48.2 | 44.7 | 48.2 | |
| やや減った | 19.2 | 19.7 | 15.7 | 27.4 |
| 減った | 10.7 | 11.8 | 11.7 | |
| D.I. | ▲ 7.9 | ▲ 7.7 | ▲ 2.9 | |

家計収入D.I.の推移




## 図表7　家計収入D.I.（年代別）

| 年代 | 24年5月 | 25年5月 | 今回 |
|---|---|---|---|
| 全体 | ▲ 7.9 | ▲ 7.7 | ▲ 2.9 |
| 10代 | ▲ 16.7 | 25.0 | 0.0 |
| 20代 | 50.1 | 42.9 | 45.5 |
| 30代 | 13.8 | 26.5 | 26.0 |
| 40代 | 11.3 | 15.5 | 14.5 |
| 50代 | ▲ 7.6 | ▲ 6.2 | 1.6 |
| 60代 | ▲ 27.5 | ▲ 34.3 | ▲ 27.5 |
| 70代以上 | ▲ 38.1 | ▲ 27.9 | ▲ 25.1 |

## 図表8　今後の家計収入

（単位：%）

| 項目 | 今回 | |
|---|---|---|
| 増える | 2.2 | 18.0 |
| やや増える | 15.8 | |
| 変わらない | 52.7 | |
| やや減る | 17.5 | 29.3 |
| 減る | 11.8 | |
| D.I. | ▲ 11.3 | |

## 図表9　今後の家計収入D.I.（年代別）

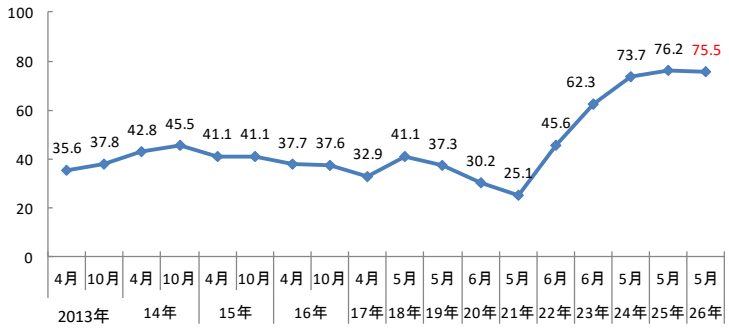
| 年代 | 今回 |
|---|---|
| 全体 | ▲ 11.3 |
| 10代 | 0.0 |
| 20代 | 45.5 |
| 30代 | 19.0 |
| 40代 | 4.5 |
| 50代 | ▲ 9.8 |
| 60代 | ▲ 32.9 |
| 70代以上 | ▲ 36.5 |

## 図表10　家計支出（1年前比）

（単位：%）

| 項目 | 24年5月 | 25年5月 | 今回 | |
|---|---|---|---|---|
| 増えた | 35.8 | 44.5 | 38.5 | 79.0 |
| やや増えた | 42.7 | 37.2 | 40.5 | |
| 変わらない | 16.7 | 12.8 | 17.5 | |
| やや減った | 3.5 | 4.3 | 2.3 | 3.5 |
| 減った | 1.3 | 1.2 | 1.2 | |
| D.I. | 73.7 | 76.2 | 75.5 | |

家計支出D.I.の推移




## 図表11　家計支出D.I.（年代別）

| 年代 | 24年5月 | 25年5月 | 今回 |
|---|---|---|---|
| 全体 | 73.7 | 76.2 | 75.5 |
| 10代 | 50.0 | 50.0 | 71.5 |
| 20代 | 61.0 | 78.6 | 81.9 |
| 30代 | 80.2 | 82.9 | 84.0 |
| 40代 | 91.2 | 81.1 | 86.4 |
| 50代 | 68.3 | 72.6 | 73.4 |
| 60代 | 70.7 | 75.4 | 68.5 |
| 70代以上 | 65.5 | 72.1 | 67.7 |

## 図表12　今後の家計支出

（単位：%）

| 項目 | 今回 | |
|---|---|---|
| 増える | 43.2 | 79.5 |
| やや増える | 36.3 | |
| 変わらない | 16.5 | |
| やや減る | 3.0 | 4.0 |
| 減る | 1.0 | |
| D.I. | 75.5 | |

## 図表13　今後の家計支出D.I.（年代別）

| 年代 | 今回 |
|---|---|
| 全体 | 75.5 |
| 10代 | 71.5 |
| 20代 | 91.0 |
| 30代 | 84.0 |
| 40代 | 85.5 |
| 50代 | 70.2 |
| 60代 | 69.7 |
| 70代以上 | 69.8 |



はじめよう、あたらしいコト。
鹿児島銀行